



平成23年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年8月2日

上場会社名 株式会社トクヤマ 上場取引所 東
 コード番号 4043 URL <http://www.tokuyama.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 幸後 和壽
 問合せ先責任者 (役職名) 広報・IRグループリーダー (氏名) 松本 良文 (TEL) 03(3499)8023
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月11日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第1四半期の連結業績（平成22年4月1日～平成22年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第1四半期	70,264	14.6	4,354	102.2	2,878	83.9	1,823	143.3
22年3月期第1四半期	61,297	△22.1	2,152	△71.1	1,564	△79.3	749	△83.1

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
23年3月期第1四半期	5	24	—	—
22年3月期第1四半期	2	73	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円	銭	
23年3月期第1四半期	448,445	242,594	242,594	242,594	52.7	679	08	
22年3月期	452,893	243,606	243,606	243,606	52.4	682	03	

(参考) 自己資本 23年3月期第1四半期 236,306百万円 22年3月期 237,338百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
22年3月期			3	00	3	00
23年3月期						
23年3月期(予想)			3	00	3	00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、第2四半期（累計）は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期(累計)	140,000	7.0	8,000	△4.4	6,000	△14.4	3,500	△18.0	10	06
通期	286,000	4.7	14,000	△15.1	13,000	△15.3	7,500	0.6	21	55

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 : 有

4. その他（詳細は、[添付資料] P.5「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動： 無

新規 一社 (-) 除外 一社 (-)

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用： 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更： 有

② ①以外の変更： 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

23年3月期1Q	349,671,876株	22年3月期	349,671,876株
23年3月期1Q	1,689,647株	22年3月期	1,685,474株
23年3月期1Q	347,983,281株	22年3月期1Q	274,014,325株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施しています。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	P. 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	P. 4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	P. 4
2. その他の情報	P. 5
(1) 重要な子会社の異動の概要	P. 5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	P. 5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	P. 5
3. 四半期連結財務諸表	P. 6
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 6
(2) 四半期連結損益計算書	P. 8
(3) 継続企業の前提に関する注記	P. 9
(4) セグメント情報	P. 9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	P. 10

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、以下のとおりとなりました。

(単位：億円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
平成23年3月期 第1四半期累計期間	702	43	28	18
平成22年3月期 第1四半期累計期間	612	21	15	7
増減率	14.6%	102.2%	83.9%	143.3%

(売上高)

景気回復に伴う販売数量の増加と石油化学製品を中心とした一部製品の販売価格の是正等により、前年同期より89億6千万円増加し、702億6千万円（前年同期比14.6%増）となりました。

(売上原価)

販売数量の増加や主要原料であるエチレン・プロピレンの価格上昇等により、前年同期より67億3千万円増加し、511億9千万円（前年同期比15.1%増）となりました。

(販売費及び一般管理費)

販売数量の増加に伴う物流費の増加があったものの、各種の合理化等により前年同期より3千万円の増加にとどまり、147億1千万円（前年同期比0.2%増）となりました。

(営業利益)

販売数量の増加と一部製品の販売価格の是正に加えて、操業度の上昇や減価償却費の減少等により、前年同期より22億円増加し、43億5千万円（前年同期比102.2%増）となりました。

(営業外損益・経常利益)

営業外損益は為替差損等により前年同期より8億8千万円悪化しました。この影響等で経常利益は13億1千万円の増加にとどまり、28億7千万円（前年同期比83.9%増）となりました。

(特別損益・税金等調整前四半期純利益・四半期純利益)

特別損益は投資有価証券売却益の減少等により8千万円悪化しました。

以上の結果、税金等調整前四半期純利益は前年同期より12億2千万円の増加にとどまり、27億1千万円（前年同期比82.2%増）となりました。

応分の税金費用等を加味した四半期純利益は前年同期より10億7千万円増加し、18億2千万円（前年同期比143.3%増）となりました。

(セグメント別の状況)

売上高

(単位：億円)

	報告セグメント					その他	差異調整	合計
	化学品	特殊品	セメント	機能部材	計			
平成23年3月期 第1四半期累計期間	208	222	153	104	688	98	△85	702
平成22年3月期 第1四半期累計期間	171	178	150	101	601	80	△69	612
増減率	21.8%	24.9%	2.2%	2.6%	14.6%	22.4%	—	14.6%

営業利益又は営業損失(△)

(単位：億円)

	報告セグメント					その他	差異調整	合計
	化学品	特殊品	セメント	機能部材	計			
平成23年3月期 第1四半期累計期間	7	31	4	4	47	5	△9	43
平成22年3月期 第1四半期累計期間	6	29	△0	0	35	2	△16	21
増減率	18.3%	8.5%	—	748.2%	34.0%	81.7%	—	102.2%

(注) 各セグメントの売上高、営業利益にはセグメント間取引を含めております。

また、平成22年3月期第1四半期累計期間の数値につきましては、新セグメントの区分に組み替えて表示しております。

(化学品セグメント)

製品によっては需要の回復が見られ、さらに石油化学製品の販売価格は正効果等により、売上高は大幅に増加しました。また、利益については、燃料価格の上昇はあったものの、前述の効果に加え、中国向け塩化ビニルモノマーの市況回復等により、増益となりました。

塩化ビニル樹脂事業の新第一塩ビ株式会社は、需要底打ちを背景にした販売数量の増加、及び製品の価格は正効果により増益となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は208億2千万円(対前年同期比21.8%増)、営業利益は7億2千万円(対前年同期比18.3%増)で増収増益となりました。

(特殊品セグメント)

多結晶シリコンは、太陽電池需要の大部分を占める欧州の経済不安にも係らず、出荷が好調で増収となりました。しかしながら、販売価格の下落や円高の影響に加えて、燃料価格の上昇等により減益となりました。

乾式シリカは、主に液晶・半導体の研磨材用途の出荷が好調で増収となりました。なお、湿式シリカは合理化に取り組んでおります。

窒化アルミニウムについては、半導体市場の回復等により出荷が好調となり、増収増益となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は222億9千万円(対前年同期比24.9%増)、営業利益は31億5千万円(対前年同期比8.5%増)で増収増益となりました。

(セメントセグメント)

セメントは、引き続き官需は減少し、民需も回復せず、国内販売数量は減少しました。また、セメント生産量の減少に伴い廃棄物収集量も減少しましたが、前第3四半期より子会社1社が連結対象に加わったこと等により、売上高は前年並みとなりました。また、独自に事業構造の改革に取り組み合理化を推し進めました。

以上の結果、当セグメントの売上高は153億5千万円(対前年同期比2.2%増)、営業利益は4億3千万円で増収増益となりました。

(機能部材セグメント)

フィガロ技研株式会社は北米での需要が増加し、販売が好調でした。サン・トックス株式会社は販売価格は正の効果により増収となりました。一方で、株式会社エクセルシャノン販売が低迷しました。そのため、増収幅はわずかなものにとどまりました。

しかしながら、総じて合理化策が功を奏し、増益となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は104億1千万円(対前年同期比2.6%増)、営業利益は4億3千万円(対前年同期比748.2%増)で増収増益となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は4,484億4千万円となり、前連結会計年度末に比べ44億4千万円減少しました。主な要因は、受取手形及び売掛金48億4千万円の減少等です。

負債は2,058億5千万円となり、前連結会計年度末に比べ34億3千万円減少しました。主な要因は、各種引当金の純減14億7千万円等です。

純資産は2,425億9千万円となり、前連結会計年度末に比べ10億1千万円減少しました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

最近の業績動向を踏まえ、平成22年5月12日に公表いたしました平成23年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想を変更しております。詳細につきましては、平成22年8月2日付「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。通期の連結業績予想につきましては、当社の事業環境が不透明なため、平成22年5月12日に公表いたしました業績予想を据え置いております。

本業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

